

## こどもの居場所づくり事業の現状と拡充について

本市では、学校になじめないなど様々な悩みを抱える子どもたちの健全育成を目的に、学校でもない家庭でもない「こどもの居場所」として、「あかしフリースペース☆トロッコ（以下、「トロッコ」という。）」を2021年9月に開設し、運営を行っています。

「トロッコ」は、小学生から高校生までの誰もが申込みでき、こどもに寄り添い、学習支援や相談支援など、こどものニーズにあった適切な支援ができる居場所となっています。

また、運営開始から2年4か月が経過し、「トロッコ」では入所待機者が発生していることから、新たな「こどもの居場所」の候補地を明石市西部エリアでの設置を検討しています。

### 1 「トロッコ」の概要

#### (1)運営場所

明石市天文町1丁目

#### (2)運営時間

午前9時から午後5時（土日、祝日、年末年始は休み）

#### (3)対象者

##### ①対象者

学校になじめないなど様々な悩みを抱える、原則、明石市に住居を有する6歳から18歳までの児童生徒及びその保護者

##### ②利用登録者数

2023年12月末時点で33名（定員は30名）

##### ③入所待機者数

2023年12月末時点で53名

#### (4)運営形態

業務委託（公益財団法人こども財団に委託し、運営は「一般社団法人こどものこれからとおとなの役割」が担っています。）

#### (5)主な運営内容

- ・子どもたちの主体性を尊重し、多様な体験や学習支援を実施
- ・こどもとスタッフで定期的なミーティング「こども会議」を実施し、子どもたちの声や思いを大切にしながら活動内容を決定
- ・保護者が悩みを共有できる場として、「おやかフェ」を開設し、保護者からの相談にも応じ、必要な情報提供や助言の実施
- ・幼児から大人まで誰もが参加可能なプレイパーク「オープントロッコ」を月1回、明石公園にて開設
- ・教育委員会、各関係者と連携し、児童生徒に寄り添った支援を実施

## (6)利用者、保護者の声

### 【利用者】

- ・人間関係がうまく築けるようになった。家族とよく話すようになった。自分の気持ちを大切にしようと思った。
- ・トロッコに通うまで気づけなかったこと、出来ていなかったことなど沢山あり、学校とは違うが、今までより良い方向に行っていると感じる。
- ・不登校になって他人の目線などが怖かったり、将来への不安や心配があったが、トロッコで同じ悩みを抱える友達やスタッフとの関わりを経て、精神的に強くなることができた。

### 【保護者】

- ・こどもが「トロッコ」という居場所が出来たことで、保護者として少しほっとしたように感じた。
- ・自分だけが不登校なわけではないと知ることができ、気持ちが軽くなって笑顔が増えたように感じる。
- ・自分の出来ること、やりたいことを進んで取り組む姿勢が見られ、楽しそうにしている。こどもの笑顔がとてもうれしい。

## 2 新たな「こどもの居場所」の設置について

現在の「トロッコ」は、山陽電鉄人丸前駅から徒歩5分のところにあり、明石市東部エリアに位置しています。「こどもの居場所」事業では、市内全域からの利用者を想定しているため、新たな「こどもの居場所」については、明石市西部エリアで、こどもたちが通いやすい場所を検討しています。

### (1)設置エリア

現在、明石市西部エリアでJR魚住駅周辺を候補地として検討を進めています。

### (2)開設時期

令和6年10月頃の開設を予定。

### (3)利用定員数

30名（現在のトロッコと同程度を予定）

### (4)改修費用に係る補助金等

公益財団法人B&G財団助成金及び国庫補助を活用。

### (5)現状の取り組みの更なる充実

新たなこどもの居場所では、利用定員数とは別に、こどもたちが気軽に立ち寄れる「フリーコーナー」を設置することを検討しています。